



新春の集いご案内

昭和59年1月29日

多数の御参加を、心から!!

何かと話題の多かった年も、過ぎようとしています。会員の皆様には、気持ちも新にして、新年への期待に燃えておられることでしょう。この秋二度目の叙勲に輝いた前会長、安達龍作氏のお祝いをも兼ねて、皆様と新春の喜びを共にしたいと存じます。どうぞ、ご参集をお待ちしています。

当日は来年度の計画についても、ご協議いただきました。思っています。どうぞ、よろしく。

- 一、日時 59年1月29日(日) 午後一時(正午受付)
- 一、会場 須賀神社(新宿区須賀町五)

案内図は別紙を参照下さい。

- 一、会費 三二〇〇円(折詰、飲物、果物、福引他)
- 一、返信 1月20日までに届くようお願いいたします。

今回も皆様のご協賛により、手製の作品家庭に眠っている日用品などを、福引として興を添えたいと存じます。奮ってご提供くださいますようお願いいたします。余興のご出演を歓迎いたします。

予告

春の総会(第25回) 5月27日(日)
会場は昨年と同じ、東京新潟県人会館の予定
箱根花の旅(第5回) 4月15/16日
青巒荘に一泊。ご家族お揃いでご参加を

会の動き

第24回総会 5月29日
東京新潟県人会館で。二面参照

PTA会長来訪さる 7月14日
小学校のP会長安達良一氏が、

上京されて佐藤会長と会合した。

10月13日に挙行される母校の百十周年記念行事について、東京片貝会からも心分の援助を要請された。役員とよくはかって善処したい旨を回答する。

東京新潟県人会納涼の夕

7月29日

恒例の催しが八芳園で開かれた昨年は参加しなかったが、今回は会から、安達宗吾、大矢福次、佐藤登八、相崎勇次、黒崎孝造の五氏が参加した。

新潟市万代小学校の児童による万代太鼓の演奏があり、格別の人気があった。

小学校へ寄付金を届ける

9月19日

かねて要望されていた記念行事のための寄付金として、会の別途積立金のうちから二十万円を、記念事業委員会に寄贈した。

このことについては、みなさんに呼びかけるべきであるとか、金額についても、種々意見があったが、いま励ます会の活動が進行中であり、重ねて寄付をお願いすることは、必ずしも適当ではないと判断して、このようにきめさせていただきました。ご了承ください。

新年会準備役員会

11月6日

港区勤労福祉会館で。新年会の内容、励ます会の会計状況、来年の総会、役員改選についてなど協議した。十四名出席。

第二回記念講演会

11月22日

母校を励ます会主催の講演会。講師は永井正雄氏(大正14卒)お話の内容、様子は三面を参照

春の集い

ことしの
総会の

58・5・29

新装の県人会館で

曇り空から、やがてしとしと小雨に変わる。静かな朝だ。
今年の会場は、こんど新装なった湯島の新潟県人会館で催した。広くはないが、明るいデザインややわらかいじゅうたんが快い。

総会

佐藤会長が事業報告を兼ねてあいさつ。最近岩波文庫から出版された、郷土の偉人石黒忠恵氏の著書「懐旧九十年を紹介した」。



続いて会計報告をし、この度新発足した「母校を励ます会」の代表世話人を引受けていただいた佐藤祐一氏から、これまでの経過報告と、当日ご協力いただいた状況を会長から片貝小、中学校長に対し図書代金として、各十万円を贈呈した。この後来賓各位から、別項のご挨拶をいただいた。

ひき続き会員の永井正雄氏（前号に紹介、叙勲）西山和子さん（ご主人が区議に再選）安達一男氏（区議に当選、父徳太郎さんのご長男）三氏に心ばかりのお祝いの品を贈呈して、総会を終了した。

協議会長 吉田一雄先生
このたび大役を引き受けることになった。町づくりの為に一層邁進したい。最近田が整備されて、見違えるよう、又母校を励ます会の結成について、皆様の愛郷心に感動しています。

市議会議員 本田善治氏
議会の副議長に就任し、その責

務の重大さを痛感している。小千谷大橋が完成したが、更に高梨地区にも架橋を促進したい。

今年の秋祭りには、三尺玉が例年より多く揚がる見込み、ぜひ祭にはお出でください。

小学校長 田口 信先生
片貝の子どもに非行児はいないすくすく伸びている。秋には創立百十周年式典と、全国的な道徳教育の発表をするので、ここに片貝あり、という意気込みで頑張っています。

中学校長 林 鉄雄先生
他校との競技大会で、よい成績であった。特にバレーがよかった

昨年励ます会主催の安達生恒先生の講演には、深い感銘を受けた。
小学校PTA会長 安達良一氏
父兄として、先生方の教育にできる限りの支援を惜まず、みんなと力を合わせて頑張っています。

楽しい懇談会

顧問の広井三代次さんの音頭で乾杯して、酒を酌み交わした。
和気あいあいのうちに、楽しい談笑となる。神林徳次、丸山 茂、松井重治さんなどつぎつぎと美声で歌ってください。
久々で参加くださった丸山フジ

さんは、九十才の高令で、昔に変わらぬ日本舞踊を披露された。足どりもしっかりしていて、一同感激奥田佳子さんの踊りもすばらしかった。

最後に木遣りを全員で合唱して楽しかったひとときの幕を閉じた



またの再会を期して……

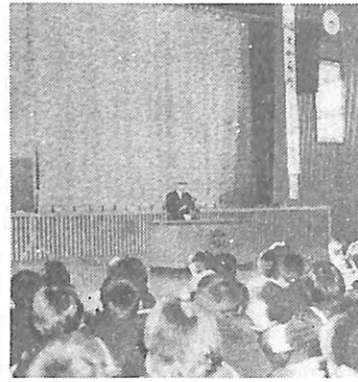
当日は来賓及び会員の多数よりご芳志をいただいた。又星野小千谷市長、本田農協組合長、浄照寺の住職より丁重な祝電をいただいた。深く謝意を表します。

出席者（八九名、敬称略）

来賓 五名 上の記事参照
会員
○明治
丸山フジ
○大正 2 / 15
丸山松江 浅田兼次 広井三代次
吉原賢策 水内脩治 小野塚健次

心の健康を大切に 母校を励ます会記念講演会

11月22日



奏した結果である。しかし、どんなに寿命が延びても、健康でなければ何もならない。同時に、その人の心が豊かでなければ、真の幸福とは言えない。

初冬の柔らかい日が、時おり射して、おだやかな一日だった。

昨年ひき続き、母校を励ます会の記念講演会を中学校の体育館で開いた。

講師は永井正雄氏(太14卒・医学博士)。先生のごことは、前号で詳しい紹介をした。小学生五、六年と中学生全員に参加してもらった。その他町の有志も約百名近く加った。永井先生の同級の方も、七名見えていた。お話の大様は、戦後、日本人の寿命は飛躍的に延びた。これは栄養知識の普及と医学の進歩で、伝染病対策が効を

でどれだけ心の支えになっていくか分らない。
前途ある皆さんは、どんな辛いことにもめげないで、頑張られる心の強さと豊かさ、健康な体力を養ってください。今後の活躍を期待しています。

会員近況

三尺三寸の額―友田勝良氏
総会当日、当時世界一を誇った花火の額を希望者に頒布した。額は千洲額縁KKの製品である。工場は片貝の屋敷にあり、販売の社は東京杉並にある。友田さんの経営である。目下、営業は発展の一路をたどり、将来が期待されている。(昭25卒)

書道展―黒崎敬五郎氏
片貝を代表する書家として活躍されている同氏は、瑞雲書道会の審査員でもある。同会は文化功勞者として名高い豊道春海氏の系列にある。
瑞雲展―7月26〜31日(上野)
墨遊展―8月5〜8日(銀座)
右は黒崎氏の主宰する書道会展

- 神林徳次 相崎尚次 高野朝五郎
- 大矢福次 安部盛治 渡辺左武郎
- 佐藤量八 永井正雄 三重堀繁蔵
- 星野三作 安達徳太郎
- 昭和2〜10
- 山田雅子 相崎勇次 早川松太郎
- 山口よし 松井重治 日下部政子
- 小宮孝作 小川茂雄 小野塚マツ
- 相崎マサ 芝 五郎 丸山千代野
- 吉井武二 芋川とし 相崎善次郎
- 丸山 春 山口三郎 浅田鉄二
- 小宮竹次 黒崎孝造 大矢幸治
- 佐藤彦一 芝三四司 丸山 茂
- 武藤睦子 吉原菊枝 山口武一郎
- 奥田佳子 小宮良夫 森本比夫
- 昭和11〜20
- 高橋四郎 浅田鉄夫 山口吉五郎
- 山田チエ 佐藤広次 青木富代
- 穂刈フサ 相崎よし 五十嵐忠作
- 丹治きみ 佐藤道雄 佐藤敏雄
- 小宮幸雄 西山和子 五十嵐貞雄
- 三重堀清
- 昭和21〜30
- 川合ツヤ 相崎富代 吉原三代治
- 佐藤安治 新野次朗 阿部修次
- 山岸慶昭 安達和三 本田富雄
- 小宮きよ 清水好男 神林勝男
- 高野 賢 黒崎 正 岸田トシ子
- 松川セイ 佐藤祐一 本田正弘
- 昭和31〜32
- 藤塚 悟 諸我時夫 吉井信三
- (奥田和男 安達一男)

ふるさととは・今

電子工業の会社ができる

鴻の巣の西山地域にある林野四万坪を買収して、松下電装関係の工場が建つことになった。

土地の契約も済み、これから建築にかかるというから、本格的に作動するのは、まだ先になろうが地域の発展に役することが大きいものと、熱い期待が寄せられている。

魚沼線廃止について

長い間、町民の足であった魚沼線も、来年三月に廃止されることになった。

その見返りとして、朝夕のバスを増発し、軌道はバイパスとして大型車を通すよう、目下その具体案が検討されている。

中央墓地を整備

昨年、上の墓地が整備されたが、こんど中央の墓地も舗装されて立派になった。七月三十一日に星野市長も出席して、盛大な竣功式が行われた。

賑かに秋祭り

九日、十日は午前中小雨に悩まされたが、午後から宵にかけて雨も降らず、例年にも増して賑やかな祭りであった。

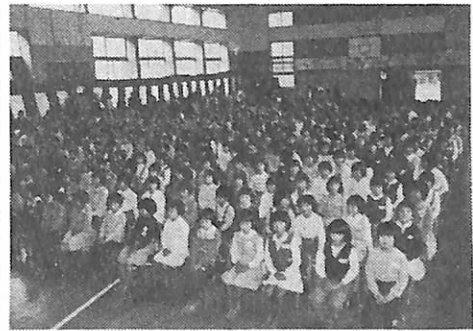
片貝が全国に誇る三尺玉は、九日の夜二発、十日の昼一発、夜二発計五発もあがった。昨年揚った三尺三寸は見合わせになったが、来年揚がるという、四尺玉の筒が社頭に飾られている。長岡の三尺の祭りが話題を呼んでいる。

百年後のタイムカプセル

昨年永遠会は三尺三寸を揚げたが、今年厄年を迎えた伸友会は、三尺玉を揚げると共に、三尺三寸記念碑を境内に建てた。そして十月十五日に有志が、この碑の中に百年後を見ざして、いろいろの物を納めた。百年後に果して？

◎母校の近況

小学校百周年式典 10月13日
新築の体育館で盛大に催された



百十周年式典

市長、教育委員、教育長、市議など多数の来賓のほか、協議会長をはじめ町内の方、父兄の出席で、会場を埋め尽した。

一年生から六年生まで全員が、晴れ晴れとシュプレヒコールを斉唱したのが、今も耳に残っている。会を代表して佐藤、大矢(福)の両名が出席した。

道徳教育研究発表会 11月8日
文部省の研究校として、三年間実践したものを発表した。各地から集った参加者は四百七十名。グランドは車で埋まるほどであった。小、中学校の共同研究である。地域が一体となって、教育指導に当たっているさま、子ども達の学習

ぶりを観察された文部省の金井先生は、本当に感動した、目の覚める思いがした、とその感想を述べられた。

子どもの学習態度がよいのに、皆目を見張ったとのことである。

その後の図書室

片貝会から贈った図書は、中学校九四冊、小学校一一五冊が特別の棚に入れられて、皆さんの毎日の学習に役立っている。

児童、生徒の皆さんから、丁寧な礼状が届けられた。紙面不足で載せられないのが、残念である。



あとがき

励ます会に対する激励やら、母校からの反響など、充分に紹介できなかったのが、心残りです。励ます会も、あともう一息です皆さんの心暖かいご支援に感謝申し上げます。どうぞ、よき迎年を。